

中堅看護師の看護観の発展を 促すための指導指針

渡部昌子（基礎看護学）

【キーワード】 中堅看護師，指導過程，看護観の発展，認識，指導指針

本研究の目的は，中堅看護師への指導過程において，中堅看護師の関わりにより患者に良い変化がおき，その変化をもとに中堅看護師の看護観が発展したと捉えることができた自己の指導過程の分析を通して，中堅看護師の看護観の発展を促すための指導指針を得ることである。

研究対象は，中堅看護師（卒後4年目から10年目。看護管理者を除く）への指導過程における指導者の認識である。指導上意味があると判断した4事例15局面を選択し研究素材とした。認識の特徴を取り出すための研究素材フォーマットを作成し，中堅看護師（以下，看護師）の変化に着目して，その変化をもたらした指導者の認識と言動の特徴を分析した結果，70項目の指導のポイントを抽出した。次に，それらの指導のポイントを概観し，研究目的に則して，〈対象にとっての必要な看護を見いだす〉〈関わりを発展させる〉〈関わりを意味づけ，看護を実感できる〉〈課題を見いだせる〉の4つの視点から類別した。視点ごとに，指導のポイントの共通性・相異性を比較・照合した結果，14項目の指針を導き出した。そして，それらの指針の共通性・相異性を検討し，8項目の指導指針を得た。

以上をふまえ，・看護師の経験を活かすとは，・関わりを相手の位置から評価できるよう促すとは，・気づきを対象特性とのつながりで課題につなげるとは，の3つの観点から考察を深め，中堅看護師の看護観の発展を促すための指導指針として，以下の結論を得た。

〈中堅看護師が対象にとって必要な看護を主体的に見いだすための指針〉

1. 看護師の経験にもとづく感じ方を受けとめ，着

目した事実の意味に気づくよう，指導者が対象の位置で追体験した思いを表現し，対象への関わりを促す。

2. 看護師の判断過程において，病気と生活過程とのつながりをおさえるために，治療によって変化した生活過程の事実に着目させて，病気とのつながりでその意味を問いかけ，必要な看護を見いだせるようにする。
3. 看護師の経験のあり様を描き，必要時には専門知識と治療の意味を補う。
4. 看護師の判断や手段の選択に指導者とのずれがあると捉えた時には，指導者が対象の持てる力と捉えた治療の経過とそれに対する対象の反応を伝え，対象の位置から必要な看護を考えるように促す。
〈中堅看護師が主体的に関わりを発展させるための指針〉
5. 看護師が具体的な方法に着目して関わろうとしている時には，対象の認識に働きかけるための根拠と生活過程をつなげられるように，看護師の経験をいかしつつ，認識を刺激する。
6. 看護師が情報の共有の意味に気づいていない時には，指導者が補った行為を伝え，情報の不足による対象にとってのマイナス面を考えるように促す。
〈中堅看護師が関わりを意味づけ看護を実感できるための指針〉
7. 対象の変化につながったと指導者が捉えた場면을看護師に想起させ，対象の変化の事実を看護師と共有し，その変化の意味を対象の位置で考えられるよう，刺激する。
〈中堅看護師が課題を見いだせるための指針〉
8. 指導のきっかけとなった場面を想起させ，その気づきの意味を，対象特性とのつながりで問いかけ，課題を考えるよう促す。